

【オピオイドに関する服薬指導の要点】

オピオイドに関する服薬指導の要点

1. 疼痛管理の重要性

疼痛をがまんすることの非合理性とともに鎮痛薬を使用して除痛を行なうことの有益性を理解してもらおう。患者から積極的に痛みを訴えてもらい、疼痛治療への積極的な参加を促す必要がある。
痛みの表現方法を伝える必要もある。

オピオイドに関する服薬指導の要点

2. オピオイド(医療用麻薬)に対する誤解や不安の解消

オピオイド製剤は末期だけに用いられるのではなく、強い痛みがあれば生命予後の長短にかかわらず使用される。疼痛緩和することで有益な点が多いことを理解してもらう。

オピオイドは疼痛治療に使用している限り依存性に関する心配は必要ないことを伝える。(動物実験において、非疼痛下に比べて疼痛下では依存形成がされにくいことが明らかになっていることを必要に応じて説明に加えることも考える)

疼痛の増強を病状の進行と考える患者心理から、鎮痛薬の投与量の増減に一喜一憂したり、他の患者との間で投与量の多寡に気にかける患者も少なくない。

他の鎮痛薬とは異なり、有効限界(ceiling effect)がなく、投与量を増やすことで再び鎮痛効果が得られることや実際の症例で投与された量などを具体的に説明することも重要である。オピオイド鎮痛薬の投与は中止や減量ができないと考えている場合が多いが、状況により減量や中止についても説明する。退薬症状のことがあるので、独断で中止しないように伝える。

参考:有効限界(ceiling effect)とは?

ある薬剤の投与量を一定量以上に増量しても効果の増強は得られず、副作用が増強される現象

国立がんセンター中央病院薬剤部編著:オピオイドによるがん疼痛緩和, pp.87-109, エルゼビア・ジャパン, 東京 (2006) 一部改変

臨床緩和医療薬学:真興交易(株)医書出版部212~220,2008 一部改変.

オピオイドに関する服薬指導の要点

3. 各種オピオイドの使い方と特徴

・定期的な服用について

定期的な服用の重要性について理解してもらう必要がある。

高血圧患者が欠かさずに降圧剤を服用している例など、一般的によく知られている事例を引用すると理解が得られやすい。

患者の日常生活のパターンを把握すると服用時刻の設定がしやすい。

・各種オピオイド製剤の使い方

薬剤の投与時刻とともに鎮痛効果や副作用の発現状況を的確に把握すれば、投与法や副作用対策を考慮する際に参考となる。

複数の剤形が投与されている場合には、体内動態と効果発現時間の違いなどを説明して、効果的な使用法に役に立ててもらう。

4. オピオイドの副作用対策と各薬剤の説明

オピオイド製剤を長期にわたって安全かつ効果的に使用するには、副作用対策に関する説明は極めて重要となる。